

【仙南圏域】圏域観光に対する御意見

- 多様な観光資源が点在→各市町の周遊促進には二次交通の充実や山形、福島の隣県を含む広域的な連携強化に加え、各資源の魅力を引き出し、高める努力が必要
- 宿泊客は県内客が過半数を占め、1泊が多い傾向→滞在日数を伸ばす周遊ルートの形成や滞在型メニューの充実を図る一方、昨今の人手不足を踏まえ、宿泊者数の増加だけでなく、観光消費額の拡大を目指す。
- 仙台圏域に宿泊し、日帰りで仙南圏域を観光するケースが多い→仙南圏域内での宿泊・周遊のため、タイムリーな情報発信と観光地での多言語表示やガイドなどの、情報提供手段の整備が必要

（１）戦略的な観光地域づくり

○広報

- ・良い施設があるのに情報が行き届いていない。→観光ルート、施設等の事務所SNSを活用した広報の充実
- ・宮城県沿岸部と蔵王山麓との連携が必要 →他圏域との連携
- ・インバウンドの誘致、広域的なPRの支援 →インフルエンサー等による観光プロモーションの実施
- ・欧米の富裕層を呼べるような目玉コンテンツの発信
- ・仙南圏域への集客を増やすため、圏域が一体となって、新しいコンテンツの造成に加え、今あるコンテンツやイベントをブラッシュアップし、効果的なPRを実施することが必要
- ・高まりつつあるスポーツクラブの合宿需要などに対応できる宿泊施設のPR

○コンテンツ造成支援

- ・滞在時間を延ばし、宿泊につなげる取組が必要→早朝、夜間のコンテンツ造成支援
- ・角田・丸森地区における阿武隈川を利用した観光の検討
- ・高校生や若手農業者の様々なアイデアや、地域の商品券利用と組み合わせた体験型イベントの実施
- ・連泊ビジネス客が休日に利用できる広域クーポン券の発行
- ・地元高校生のほか、家族旅行の企画の中心となる女性・子どもたちに町の魅力や観光に関する意見を聞くことが必要
- ・オルレを宿泊につなげるプラスアルファ（夜間イベントなど）の工夫が必要
- ・圏域の宿泊観光客数が少ない5～7月に集客するためのコンテンツ造成
- ・観光地と宿泊施設をつなげる取組（スタンプラリーの実施、新たなコンテンツ利用者へのインセンティブなど）
- ・クーポンや補助金は、消費者の割引依存や事業者の行政依存を生む可能性があるため、導入には慎重である。
- ・集客力の高い「道の駅かくた」から角田市街地へ客を呼び込む工夫が必要

(1) 戦略的な観光地域づくり（続き）

○情報共有

- ・圏域への来訪目的などがサービス業で共有される取組が必要
→旅行者のニーズ把握・観光に関わる幅広い業態からの情報収集・共有

○市町への観光財源交付

○宿泊税を積み立て、長期的に幅広く使えと良い。

(2) 周遊性向上のための二次交通対策

○広報

- ・圏域は高速道路の利便性が高く、仙台や山形・福島へのアクセスに便利であることをPRしてはどうか。
- ・新幹線白石蔵王駅を起点としたレンタカー、タクシー、バスなどの交通手段のアピールをしてはどうか。
- ・二次交通が便利になると、仙南圏域への日帰り観光が増加するおそれがある。仙南圏域ならではの、不便を楽しむ田舎暮らし体験も特徴的である。
- ・レンタカー事業者の誘致は良いが、仙南地域の既存の交通や資源を発信し、需要を喚起することが先決

○二次交通の不足

- ・タクシー事業者の廃業で、タクシーの台数が減少
- ・ライドシェアを検討してはどうか。
- ・公共交通機関の終点から御釜など観光資源までの二次交通が乏しい。

○市町への観光財源交付

宿泊事業者部会での意見交換概要

(3) 快適な旅行環境のための受入環境整備

○人材育成

- ・必要とする人材が宿泊施設によって異なるため、画一的なセミナーはなじまない。
- ・外国人材については既存のサポートで充足している。 → 宿泊税はメリハリをつけて充当してほしい。

○受入環境整備充実

- ・蔵王エコーライン周辺のWi-Fi環境の整備や電波の増

(4) 効果的なプロモーションの展開

- ・ターゲットを絞るのではなく、特色ある施設を用意して、観光客に選んでもらってはどうか。
- ・インフルエンサーのPRによりSNSフォロワー数増など認知度は向上したが、宿泊者の増には直結しなかったため、来年以降の効果を期待している。

【参考】仙南圏域の観光の現状と課題

(1) 観光客入込数					(2) 宿泊観光客数				
仙南圏域の入込数は、遠刈田温泉（前年比+7万人）やおおがわら桜まつり（前年比+3万人）などでの増加により、対前年比6%増加の708万人 (単位: 万人)					仙南圏域の宿泊観光客数は、前年と同水準の約63万人泊 (単位: 万人泊)				
	H31 (R1)	R5	R6	H31(R1)年比 R5年比		H31 (R1)	R5	R6	H31(R1)年比 R5年比
仙南圏域	718	670	708	98.6% 105.7%	仙南圏域	71	63	63	88.7% 100.0%
仙台圏域	3,679	3,936	4,073	110.7% 103.5%	仙台圏域	742	727	770	103.8% 105.9%
大崎圏域	941	809	847	90.0% 104.7%	大崎圏域	77	54	58	75.3% 107.4%
栗原圏域	190	166	177	93.2% 106.6%	栗原圏域	11	9	9	81.8% 100.0%
登米圏域	347	281	293	84.4% 104.3%	登米圏域	9	8	9	100.0% 112.5%
石巻圏域	550	637	639	116.2% 100.3%	石巻圏域	38	42	38	100.0% 90.5%
気仙沼・本吉圏域	371	324	314	84.6% 96.9%	気仙沼・本吉圏域	42	40	42	100.0% 105.0%
県全体	6,796	6,824	7,051	103.8% 103.3%	県全体	989	943	988	99.9% 104.8%

(3) 旅行者の居住地エリア					(4) 旅行者の性別・年代				
県内客が約8割を占め、宮城県を含む東北地方では87%を占める。					男性が63%を占め、年代別では50代（26%）、40代（18%）の割合が高い。				
									
									